

# かにの楽園 のじまかに 解蟹マッヅ



**モクスガニ** (甲幅 6cm) ガザミ類に次ぐ大型種で美味。市内全域の河川内で生活し、海に出て産卵する。はさみに密生した毛が名の由来。(侍従川の中・上流部)



**クロベンケイガニ** (甲幅 4cm) 大型のベンケイガニ。川の下流で潮が差し込む範囲の陸上でみられる。護岸の改修で減少気味。(侍従川の下流、野島公園内のわき水がある所)



**アカテガニ** (甲幅 3cm) 野島公園や長浜公園の、森と海辺が接する場所でみられるが減少している。普段は陸上で生活し海で放仔する。はさみが赤い。(野島山の湿った斜面)



**ケフサイソガニ** (甲幅 3cm) 本市全域の、浅くて淡水の影響が強い場所で多くみられ、汚れに強い。雄のはさみにある毛の房が名の由来。(野島水路、平湯湾)



**イッカクモガニ** (甲幅 1cm) 北米原産で水質汚濁に強い。繁殖力が強く、夏に酸素がなくなる東京湾奥の海底で大発生する。(野島海岸、野島水路の干潮時に干上がらない所)



**ヤマトオサガニ** (甲幅 4cm) やや塩分が低く、泥深い河口干潟に多くみられる。横長の甲が特徴で、オサを漢字で書くと長となる。(夕照橋周辺、野島水路の横須賀側の干潟)



**チチュウカイミドリガニ** (甲幅 6cm) 地中海原産。国内では横浜で初めて発見された。本市全域のやや塩分が薄い海で増えている。(野島水路、平湯湾の干潮時に干上がらない所)



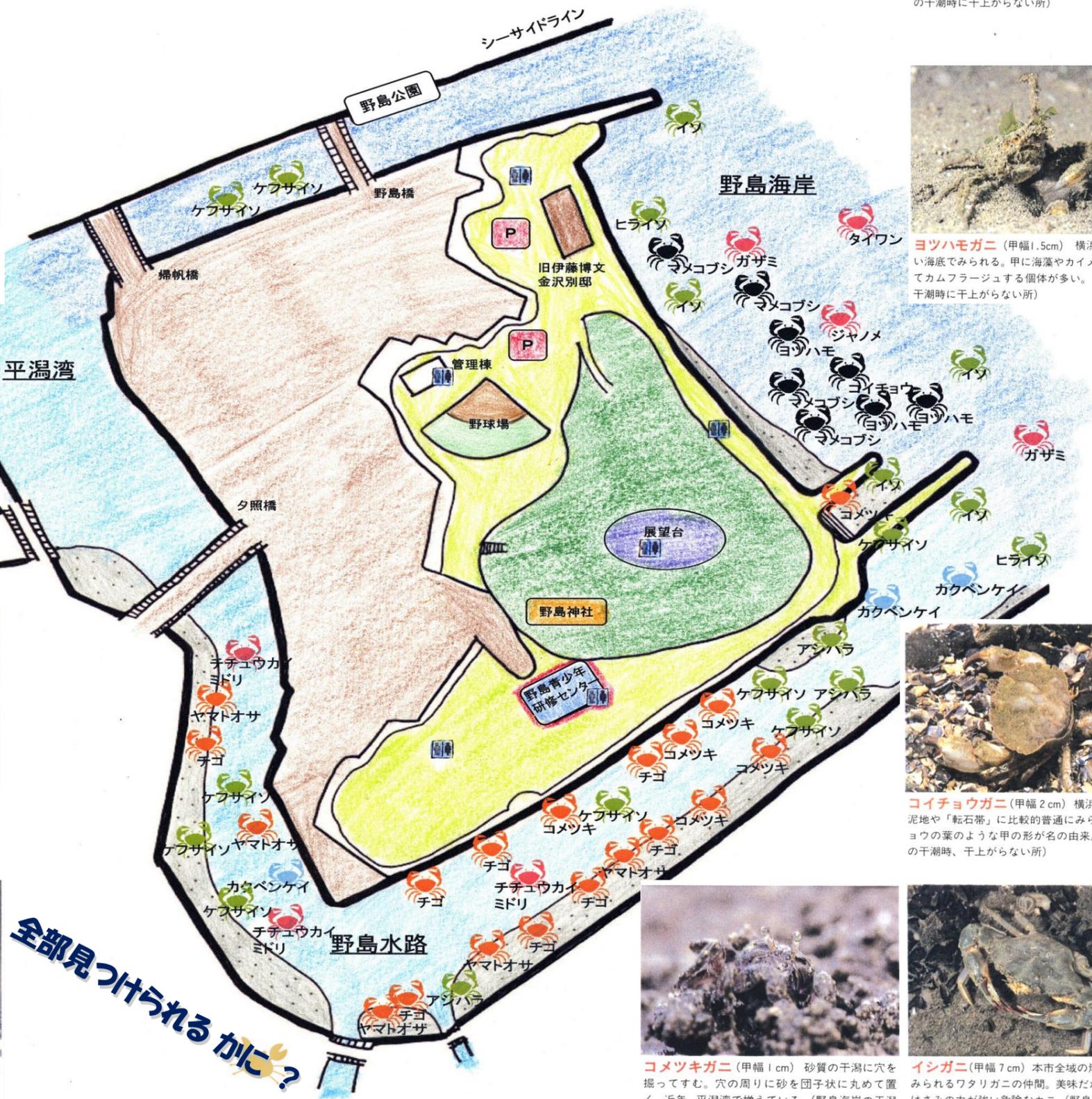
**アシハラガニ** (甲幅 3cm) 名のとおり、河口部のヨシ原にすむ。市内では野島水路だけで見られるようだが、ヨシ原の衰退とともに激減した。(野島水路の横須賀側のヨシ原)



**カクベンケイガニ** (甲幅 2cm) 金沢湾以南の、塩分が薄い場所の岸壁でみられ、水にはあまり入らない。真四角の甲が名の由来。(野島水路と平湯湾の一部の岸壁)



**チゴガニ** (甲幅 1cm) 塩分が薄く泥っぽい干潟に穴を掘ってすむ。はさみを上下に振るダンスをする。平湯湾では減少気味。(野島水路、平湯湾、侍従川の潮が差し込む範囲の所)



全部見つけられるかに?



**ジャノメガザミ** (甲幅 10cm) 根岸湾以南の淡水の影響が少ない砂泥地にみられる。甲の蛇の目模様が特徴。ガザミより小型だが美味。(野島海岸の干潮時に干上がらない所)



**タイワンガザミ** (甲幅 15cm) 金沢湾以南で数年おきにみられる。ガザミ同様、干潟の前面でみられる。名のとおり南方系で、色が美しい。(野島海岸の干潮時に干上がらない所)



**ヨツハモガニ** (甲幅 1.5cm) 横浜港以南の浅い海底でみられる。甲に海藻やカイメン類をつけてカムフラージュする個体が多い。(野島海岸の干潮時に干上がらない所)



**マメコブシガニ** (甲幅 1.5cm) 砂質の干潟を好み、金沢湾周辺には多いが、それ以外の場所では少ない。ほかのかにと違って縦に歩くのが大きな特徴。(野島海岸の干潟)



**ガザミ** (甲幅 15cm) 昔からの漁業資源のひとつ。稚ガニは干潟で成長するが、干潟の消滅に伴って減少している。(野島海岸、野島水路の干潮時に干上がらない所)



**コイチョウガニ** (甲幅 2cm) 横浜港以南の砂泥地や「転石帯」に比較的普通に見られる。イチヨウの葉のような甲の形が名の由来。(野島海岸の干潮時、干上がらない所)



**ヒライソガニ** (甲幅 2cm) 横浜港以南の、塩分が高い岸壁の上部でみられる。イソガニに似ているが、甲が平たく、色彩変異が大きい。(野島海岸の石積み突堤と横須賀側の岸壁)



**イソガニ** (甲幅 7cm) 本市全域の岸壁に普通に見られるワタリガニの仲間。美味だが気が荒く、はさみの力が強い危険なかに。(野島海岸、野島水路の干潮時に干上がらない所)



**イソガニ** (甲幅 3cm) 本市全域の、淡水の影響が少ない岸壁の上部で多くみられる。短時間なら陸上でも活動する。(野島海岸の石積み突堤と横須賀側の岸壁)



**コメツキガニ** (甲幅 1cm) 砂質の干潟に穴を掘ってすむ。穴の周りに砂を団子状に丸めて置く。近年、平湯湾で増えている。(野島海岸の干潟の一部と野島水路の横浜側)